

特集 工場夜景クルーズ

紙上体験！ユーリカ号で旅する鹿島港



①

ユーリカ号に乗ってY字型航路を進みながら、コンビナート群の夕景や夜景をたっぷり1時間かけて楽しむ鹿島工場夜景クルーズ。去年に続き、今年も10月から便数限定で運航がスタートしました。その見どころをご紹介します。



④



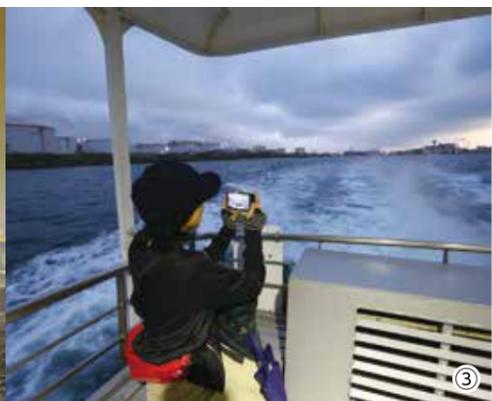
⑦



⑥



⑤



③



②

④夕暮れから夜にかけて、オレンジ色から藍色に移り変わる鹿島港 ⑤大型船と大型荷役機械が並ぶ鉄鋼コンビナート ⑥目の前で見える大型船は圧巻 ⑦海に突き出た大型クレーン

①石油化学コンビナートで神々しく光る白い山。実は工業用の塩。電気で分解し、石けんや洗剤、塩化ビニールの原料など幅広く使用される ②ユーリカ号に乗って出発 ③徐々に工場群に灯りがつき始める

大好評の特別企画を今年も実施

鹿島港といえば、地図で見慣れたY字型航路がパツと思いつく人も多いのではないだろうか。世界に開かれた海の玄関口ですが、鹿島臨海工業地帯の海上輸送基地のため、残念ながら一般の人は自由に立ち入ることができません。そこで、世界有数の掘込式港湾を多くのの人に見てもらおうと、土日祝日の昼間一便のみ見学船「ユーリカ号」が運航されています。コロナ禍の3年間は運航休止となっていました。去年から再開。しかも新たに「鹿島港工場夜景クルーズ」がスタートしました。

これは、茨城ディスティネーションキャンペーン(茨城DC)の特別企画として始まったもの。茨城DCとは、J-Rグループ6社と地域が一体となって行なう国内最大規模の観光キャンペーンです。鹿島埠頭株式会社船舶部の小野利文さんによると、去年10月からの5カ月間で、個人乗合便、ツアー便、団体貸切便など計13便を運航し、282人が乗船。「夜景がきれいだった」「また乗りたい」「知り合いに紹介したい」など、とても好評だったそうです。そのた

め、今年から期間を限定し、定期事業として継続することが決まりました。

神々しく浮かび上がる「塩の山」

それでは、体験乗船に出発。これから皆さんに、鹿島港工場夜景クルーズの紙上体験をお楽しみいただきますしよう！

日没時間に合わせて出航となるため、日没20分前に鹿島港消防署の隣にある見学船待合室に集合。ここで、鹿島港の概要や本日の見どころ、乗船の注意事項など、10分ほどのガイダンスがありました。徐々に期待が高まります。

さあ、いよいよ桟橋を渡ってユーリカ号に乗船。船溜まりを出て、まず南航路に向かいます。この日は夕日が雲に隠れて夕焼けは見られませんが、薄暮の中に工場の灯りが美しく浮かび上がってきました。

南航路から中央航路へ。石油化学コンビナートのエリアはプラントのライトが星くずのようにきらめき、フレアスタックの大きな炎も見えます。やがて、優しくライトアップされた「白い塩の山」が現れ、乗客から歓声が上がりました。これは工業